

報告事項エ

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る検討状況について（第2
回検討委員会報告）

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る検討状況について、別紙のとおり
報告します。

平成30年10月31日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る検討状況について（第2回検討委員会報告）

平成30年10月31日（水）

鳥取県幼児教育センター

（小中学校課 幼児教育担当）

第2回鳥取県幼児教育振興プログラムの改訂に係る検討委員会について、開催の概要は以下のとおりです。

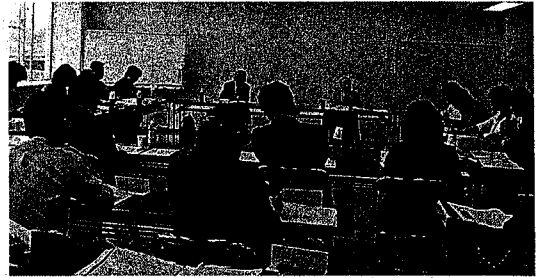
1 日時

平成30年10月10日（水）

午後1時30分から4時まで

2 会場

中部総合事務所205会議室



～第2回検討委員会～

3 参加者

（1）委員

- ・幼稚園・認定こども園関係者3名（公私立幼稚園会・こども園長会、私立保育園協会推薦者）
- ・小学校関係者1名（小学校長会推進者）
- ・保護者代表1名（私立幼稚園PTA推薦者）
- ・家庭教育関係者1名（「とっとり子育て親育ちプログラム」ファシリテータ）
- ・学識経験者2名（鳥取大学教授、鳥取短期大学准教授）
- ・市町村行政担当者2名（鳥取市こども家庭課参事、日野町教育委員会事務局教育課長）
- ・アドバイザー1名（白梅学園大学大学院特任教授）

（2）事務局

- ・教育委員会：鳥取県幼児教育センター（小中学校課・各教育局）、
教育センター、特別支援教育課、人権教育課、体育保健課
- ・福祉保健局：子育て応援課、福祉保健課、子ども発達支援課

4 概要

○鳥取県幼児教育振興プログラム（案）について 資料1

- ・作成案について、各委員の意見について協議を行うとともに、無藤アドバイザーによる指導・助言により協議を深めることができた。

*意見等の概要については別紙のとおり 資料2

5 今後の予定

委員の意見を参考に、第3回検討委員会のプログラム案を作成

《平成30年度》 2月中旬 第3回検討委員会

《平成31年度》 4月 パブリックコメントの実施

6月 第4回検討委員会

8月 第5回検討委員会

10月 鳥取県幼児教育振興プログラム改訂・配布

12月 新プログラムの普及・活用を図る「鳥取県幼児教育フォーラム」の開催

自立して生きる人 心豊かに生きる人
未来を創造して生きる人

* 赤字記載部分
平成 31 年度改訂版
で修正・新たに記載

めざす幼児の姿

遊びきる子ども

学びの基礎づくり

豊かな人間性

健康な体づくり

鳥取県幼児教育振興プログラム（平成 31 年度改訂版）
～就学前教育の充実と幼児期から小学校への切れ目のない支援体制の整備・充実～

《推進の柱》

1 幼児教育・保育内容の質の向上

2 教員・保育士等の資質向上

3 小学校教育との連携・接続推進

4 子育て・親育ち支援の充実

5 地域とともにある幼児教育の推進

《基本方針》

・幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に沿った幼児教育・保育の展開
・幼児教育・保育環境の充実
・特別支援教育の充実

・研修体制の整備
・研修内容の充実

・連携・交流の体制づくり
・つながりを意識した幼児教育・保育内容の充実

・「親と子の育ちの場」の充実
・子育て支援体制の充実
・地域における園のセンター的機能の整備

・幼児教育・保育施設と関係組織の連携
・地域とともにある園づくりの推進

【幼児】

・文字や数字への関心が高い ・情報が得やすく知識が豊富 ・素直で人なつっこい ・ものがあふれた中での生活
・基本的な生活習慣の自立の遅れ ・コミュニケーション能力が未発達 ・人とつながることが苦手
・小学校生活への不適応 ・外遊びや直接体験の不足 ・体の使い方が未熟で、体力・運動能力が低い
・自制心や規範意識の不足 ・遊びこむ（遊びに集中・遊びに広がり・試行錯誤のある遊び等）体験不足

【保護者】

・子育てへの関心の二極化 ・我が子へ愛情をかけている ・子育てよりも自分のことを優先 ・公的な場でのマナーなど規範意識の低下
・しつけ、子育てを園に任せがち ・コミュニケーション能力・人とつながる力の弱さ ・子育ての孤立化・子育て不安や情緒不安
・様々な情報から正しい情報を選択する力の弱さ ・子どもとの愛着関係の形成に課題

【地域・社会】

・少子・高齢化 ・核家族化等家族形態の変化
・身近な自然や遊び場の減少 ・地域とのつながりの希薄化
・子育て支援体制の整備による活用 ・育児情報の氾濫
・AI（人工知能）の進化
・子ども同士で遊び、葛藤しながら成長する機会の減少

【教職員等】

・「遊びきる子ども」を育む保育実践への意識向上及び園における取組の増加
・家庭や地域社会の教育力の低下に対応するための資質・専門性を高める必要
・教員等自身の多様な体験の不足 ・保護者との良好な関係を構築する力が未熟
・保育を構想し実践する能力が不足する傾向
・多様な発達や家庭環境に対応する力が必要

鳥取県の特徴 ・女性就業率が高い ・保育所入所児の割合が高い ・長期間・長時間保育の子どもが多い

背景

第2回「鳥取県幼児教育振興プログラム」の改訂に係る検討委員会（協議）まとめ

日 時 平成30年10月10日（水）

会 場 中部総合事務所205会議室

区分	委員意見	無藤アドバイザー指導・助言
全体	<ul style="list-style-type: none"> ○言葉の使い方、表記の整理が必要 ・幼稚園、認定こども園、保育所など施設名称等の整理 ・具体的な取組の主体 【県・鳥取県教育委員会】に統一 	
推進の柱1 「幼児教育・ 保育内容の質 の向上」	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校等の具体的な取組について、理解を深めるだけでなく、「理解をしたのち、教育に生かしましょう」などもう一步進んだ表記とすること ○市町村・設置者について、保育の質の向上・処遇改善を考慮した文言の追加 ○「正職員」の文言は重要 	
推進の柱2 「教員・保育 士等の資質向 上」	<ul style="list-style-type: none"> ○資質の向上・質の向上を測る物差しがない。数値目標を入れるか。幼免1種保有率が低い。質の向上を図るためにも免許の上申を考えるべき。 ⇒人材育成指標を H24 版と同様に参考資料として入れる。 ⇒（プログラム改訂とは別に）免許の上申をどう進めるか（公的に進めるかどうか）要検討 ○学校評価・自己評価は重要。保育所・幼稚園・認定こども園の教職員の意識がどう変わっていくか定点観測が必要。「学び続けたい」は重要であり追記に賛同。 	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアアップ研修含め、研修整備は大きな課題。10年経験者研修と更新講習は人によっては時期が近く、現在整理中。幼稚園だと勤続年数の短さもあり、10年目でなく5年でもとの話もある。研修の整理、相互乗り入れのやり方は自治体間で差。
推進の柱3 「小学校教育 との連携・接 続推進」	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援会議・支援計画は、推進の柱1の特別支援の枠だけでなく小学校との連携など関係するところに記載すべき ○幼保小の交流活動について、年間指導計画だけでなく、保育課程・教育課程へ位置づけるよう踏み込んで記載すべき ○幼児・児童と分けての記載となっている。児童について、高学年においては人権意識を育みたい。「遊びきる」と「自尊感情」は大事。自尊感情は幼児・児童と分けて書かなくてもよいのではないか。 ○自尊感情は「高める」もの 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校向けの記載があってもよい。「小さい子に関わることで、小さい時期を振り返り自分の育ちを見つめる」といったことを書き込んではどうか。
推進の柱4 「子育て・親	<ul style="list-style-type: none"> ○小学校保護者と園の保護者のつながりができると、就学がスムーズになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校にはスクールカウンセラー配置。中学校ではスク

<p>育ち支援の充実</p>	<p>○日野町では保護者が自主的に交流している。</p> <p>○「保護者が気軽に相談できる雰囲気づくり」とあるが、保護者が問題意識を持っていない場合は相談に来ない。積極的なアプローチをする記載を入れてほしい。</p> <p>⇒アウトリーチの問題。園のセンター的機能に入れ込むよう検討する。</p> <p>○眠育とは何か。</p> <p>⇒注釈を入れる。</p>	<p>ールソーシャルワーカーを増やそうとしている。幼稚園・保育所だと国のお金での配置はない。大阪府は私立幼稚園団体に設置している。ごく一部の自治体に現状は限られている。</p>
<p>推進の柱5 「地域とともにある幼児教育の推進」</p>	<p>○関係機関の並びに違和感。こども食堂は浮いた感じがする。関係機関であれば児童発達支援センターなどもある。</p> <p>○地域とともにあると言いながら【地域】がない。地域の視点がない。地域の役割を各機関が認識するために書いておくべきではないか。</p>	

